

シンポジウムで寄せられたご意見・ご質問と市の考え方

シンポジウム当日に会場で配布した「登壇者に聞きたいことシート」では、多くのご意見・ご質問をお寄せいただき、ありがとうございました。いただいたご意見・ご質問と、それに対する市の考え方・回答について、以下のとおりご紹介いたします。

なお、項目ごとに整理して掲載している都合上、質問内容を分かりやすくするために一部補記や表現の調整を行っているほか、特定の個人に関する内容については一部省略しております。

また、判読が難しいものについては掲載を見送っておりますので、あらかじめご了承ください。

（１） 整備計画について

▶ 施設の必要性・コンセプトについて

- ・公共費用を投じて、仙台市が「文化」「芸術」にお金をかける意図とか必要性、思いを教えてください。
- ・幅広い内容のホールだと伺いました。楽しみです。とてもうらやましいです。
- ・杜の都仙台への仙台に誇りを持てる、住む者にとっての郷土愛を育む⇒これを目指すビジョンとしてのこの複合施設に与えても良いのではと思います。いかがでしょうか。
- ・東日本大震災での国内外からの支援への恩返し
- ・設計者が、施設にふらっと立ち寄る人が、と言いますが、立地は目的のある人しかこないと思いますが。
- ・普段から市民や観光客がふらっと立ち寄る仕掛けなどはどのように考えていますか。
- ・居場所みたいな施設とかより、コミュニティみたいな所ありますか。バーとかやってるところありますか。
- ・smt（メディアテーク）は緑が映り込み素敵だなと思ってありますが、音楽ホールはどんな建物になっていくか簡単でいいので教えて下さい。東京のように、キラキラして集客できる施設になることを説明をお願いします。
- ・今回建設したいのは音楽ホールじゃなくて、国際会議誘致に必要な 2,000 人が入れる「新国際センター大ホール」なんですよね？だから、青葉山で国際センターに隣接していないとダメなんです？そうしないと国内での優先順位が低いから仙台市で開催難しいのが変わらない（23～24 年続けて開催したから）。市長がもう一期選挙に出て、お披露目したいが為に巨額の事業費を投入するのなら、とても認めることは出来ないのもう一度見直しと優先事業が何なのか市職員全員で考え直して下さい！市の未来の為に！！震災メモリアル拠点を作るのは結構だが、運営に毎年 10 億の赤字垂れ流す事業をするのなら全く理解出来ないです！

・音楽の心が心を育てることは年間収入が87億円で含まれない効果があるはずです。ホールの機能の詳細に意見はありますが、ここは惑わず、前に進んでほしい。ホールの必要性は間違いないものと信じております。

文化芸術基本法では、文化芸術は人々の創造性を育み、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものと定義されており、劇場法では、新しい広場として、誰にでも開かれた場となることが求められています。本市は、プロのオーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団に加え、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」「とっておきの音楽祭」など市民主体の音楽イベントや、合唱や吹奏楽など幅広い音楽活動が日常的に行われており、「楽都仙台」を都市個性のひとつとして掲げています。また、演劇や舞踊などの舞台芸術活動も盛んに行われており、これらを背景に「劇都仙台」も都市個性のひとつとして位置づけています。

整備を進めている複合施設は、長年にわたり市民の皆様とともに育んできた「楽都仙台」や「劇都仙台」に象徴される音楽文化や舞台芸術をはじめとする多様な芸術活動を、今後さらに発展させていくことを目指しています。本市の文化芸術の総合拠点である音楽ホールに、災害文化の創造拠点としての中心部震災メモリアル機能をあわせ持つことで、それぞれの役割を担いながら、連携・協働により仙台ならではの創造・発信を行い、都市に新たな魅力や価値を生み出す、杜の都の新たなシンボルとなる施設です。

加えて、本施設は、ロビーや共用空間、広場などを活用しながら、多様な活動や交流が生まれる環境づくりを進めていくこととしています。また、交流ロビーには、レストランなどを設置し、日常的に立ち寄って過ごすことができる場の形成を目指しています。

基本計画では、新たな文化的価値につながる場、災害文化の創造・発信の場、文化観光の拠点としての場を掲げており、設計者の藤本壮介氏は「たくさんの／ひとつの響き」をコンセプトとして設計したところであり、こうした取組を通じて、市民の皆様が仙台に愛着や誇りを持てるようなまちづくりにもつながっていくものと考えています。なお、本施設は音楽ホールを中心とした文化施設として整備するものですが、M I C E（国際会議や展示会など）との連携も視野に入れて検討を進めてまいります。

▶ 複合の意義

・災害復興の力は芸術にあり、明確に打ち出でのスタートに共感しました。事業費も含めて説得する力があると感じました。

・痛みも悲しみも怒りも伝わってきませんでした。命を守れる希望、人々のこれまでの挑戦への理解も伝わりませんでした。この施設でどのように伝えたいのかも伝わりませんでした。「災害文化施設」がサブでしかないような扱いのため、「災害文化施設側の視点」で音楽ホールと一体の複合施設とした方が良い点を具体的に説明があるとありがたい。

・文化芸術と災害文化？をひとつにまとめる理由がわからない。別々でもよいと思う。

・講演を拝聴して音楽ホールとメモリアル拠点施設は別に建ててほしいと思います。変更はできますか。

本市の震災復興の過程において、音楽をはじめとする文化芸術の力が改めて認識され、そのことが音楽ホール整備に対する機運の高まりにもつながってきました。東日本大震災は、当たり前とされてきた豊かさや暮らしを問い直す契機となるとともに、多くの人々が支え合い、知恵を出し合いながら復興に取り組む過程において、文化芸術が心の支えや人々をつなぐ役割を果たしてきたことが改めて共有されました。文化芸術は、心の癒しや困難から立ち上がる原動力となるとともに、人と人とを結び付け、記憶や体験を物語として長く伝えていく力を持っており、災害文化の創造・発信においても様々な形で活用することが可能です。このように、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の高い親和性を有していることから、両機能を一体的に整備する複合施設とすることとしました。

文化芸術と災害文化が融合する施設は世界的に類のないものであり、両拠点を訪れる多様な人々が出会い、交流し、思いもかけない形で様々な活動や表現に触れることで関心興味の領域を広げながら、互いに触発し合うことを通じて、これまでにない創造的な活動や新たな価値が生み出されるものと考えています。こうした考えのもと、これまで検討を重ねてきた経緯を踏まえ、現行の計画に基づき整備を進めていきたいと考えております。

▶ 既存施設との違い

- ・沿岸部と中心部のメモリアルホールとしての意義に違いはあるのか。
- ・「災害文化」は各エリアにある施設でも足りるのではないか。このホールで何を行うのか不明。
- ・今、本庁舎建設、今後、音楽ホールならびに震災メモリアル拠点の建設。泉区役所の建て替えなど、相当の金額が必要ですが資金源はどうするのか。財政はどうするのか。事業は選別をしてもらいたい。その中で音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設は現在各地域にあるホールと 3.11 メモリアル交流館があるため、今後の財政を考えたときに取りやめた方がいいと思う。よき決断をお願いします。
- ・3.11 の災害だけでなく、仙台市の施設（戦災復興記念館等）の取扱いとかどういう計画でいるのか教えていただきたい。
- ・震災から 15 年経過した今、なぜ高額な税金を投入して震災メモリアル拠点を建設する必要があるのか。震災の記憶を後世に伝えるなどの役割は既存の施設の活用で十分果たせると思う。市民生活への負担が増してる中、優先順位について改めて慎重な検討をお願いしたい。
- ・既に市内、県内には多くの震災遺構や伝承施設があるのに、新たに拠点複合施設を建設する必要があるのか。既にある防災施設をはじめ、これら震災関連施設の維持保全に膨大な費用が見込まれる。将来世代に負債を残すべきではない。

仙台市では、津波の脅威を学ぶことのできる沿岸部と、人や情報が集まる中心部に拠点を整備し、それぞれの特性を生かしたメモリアル事業を展開するとの方針を定めました。

沿岸部の拠点である「せんだい 3.11 メモリアル交流館」や「震災遺構荒浜小学校」では、震災の経験と教訓を継承する取組を重ねてきており、被害の実態や当時の暮らし、地域文化を伝えることで、本市の震災伝承における重要な役割を担っています。

一方で、中心部震災メモリアル拠点は、東日本大震災の伝承にとどまらず、将来の災害やさまざまな困難に備え、それらを乗り越える知恵や術を社会に定着させる「災害文化の創造拠点」となることを目指しています。防災・減災に取り組む方々はもとより、文化芸術分野など多様な主体と連携しながら、災害への向き合い方を考え、広く発信していく場となり、震災の経験と教訓を世代を超えて継承するとともに、国内外への発信を行う役割を担います。さらに、沿岸部の拠点をはじめとするさまざまな被災地とのネットワークを構築することで、市内外をつなぐゲートウェイ機能を担ってまいります。

また、「仙台市民会館」や「震災復興記念館」については老朽化が進んでおり、これらの施設のホール機能の更新は行わない前提としていることから、これまで担ってきたコンサートや演劇などの利用ニーズや役割を新たな拠点で受け止めていくことを見込んでおります。

（２） 事業費・財政・経済性について

▶ 建設費について

・わたしはメモリアル拠点複合施設が、仙台の新たな文化面におけるハードとしてのレガシーとなる事を祈念しています。他方、仙台には仙台フィル、SIMC、せんくらなど、ソフトとしてのレガシーが存在しています。新しい施設を整備、維持していくことに多大な費用がかかり、これまで、大変充実していたソフト面での仙台の文化レガシーがなくなったり、縮小してしまう心配はないのでしょうか？

・あまりにも事業費がふくらみ過ぎる。文化、災害事業は否定しませんが、他の事業へ振り替えてほしい。

<例>宮城刑務所を移転させて、その地に仙台伊達公園を作してほしい

※音楽ホール→大分県の竹田市と交互に荒城の月の合唱

・事業費が高額すぎる。これからさらに上昇することは十分に予想される。ここでとどまった方がよい。

・費用は 646 億円。これから最終的にいくらになりますか？

・646 億円の費用が市財政・市民に与える影響はどうか？ 何かが削減されるのではないか？

・災害文化？勝手に作った造語や音楽芸術の人々の生活への効果、もっともらしい事の説明…でも、だからといってこれだけの大きなホール、厳しい財政の中、本当に必要ですか？赤字財政、これからの 10 年は明らかです。今後起こりうる次の地震に備えてインフラの整備の方が重要です。水道、電気、ガス、道路、取り組むべき課題は山積みです。市民の生活の基盤をきちんと達成したうえで身の丈にあった音楽ホールを考えてほしいです。

・様々な社会情勢で金額の増はありますが、すばらしい設計者が決まっている事業ですので、施主と設計者で協力して当初の事業費に近づけた内容に変更してもすばらしい建築ができるのではないのでしょうか。

・当初計画 300 億円→650 億円の理由として物価高騰等を挙げているが、説明会で項目として免震（対策）構造を挙げている。2,000 席ホールで当初から重要項目と考えるが、このような基本にかかわる事項の見直しは今後も考えられるのでは。

・さらに ECI 方式ということですが、建設会社の選定はどのような手法で行われるのでしょうか？また、その ECI の検討結果から更に事業費が増加する場合、市としてどのような基準でコスト管理を行い、どの段階で設計や仕様の見直しを判断するのでしょうか？市民としては建設の賛否だけでなく、この施設が本当に将来誇れるものなるのか？維持管理費だけがかかり負の遺産とならないようになる事を願うばかりです。

・設計にゼネコンが入ってくるのは、設計者に能力がないからか？日本の大手設計なら自前でできるのでは。

・見込み額 646 億円、大変ではないでしょうか？今やるのか、優先順位が違うのではないのでしょうか？決して芸術の力を否定するものではないが、さらに値上がる予測できる状況（イラン問題）。

・立地条件（アクセスや周辺環境との関係）、複合的で無理のある施設構成、景観との調和に課題のあるデザインなどの問題をクリアするべき設計を考えたため上昇した。

本事業に係る整備事業費については、昨今の建設費の高騰等の影響により、当初想定を上回る状況となっており、ご懸念の声があることは承知しています。このため、実施設計段階においては、施工予定者のノウハウを設計に反映する ECI 方式を導入するなど、コスト縮減や施工性向上の観点から設計内容の精査を進めることとしており、建設費のみならず維持管理の効率性にも配慮しながら、必要な見直しを行ってまいります。ECI 方式における施工予定者の選定については、公募型プロポーザルにより、コスト縮減や施工性の向上、工期短縮等に関する提案を求めたうえで、外部有識者を含む審査会において総合的に評価し、選定します。

加えて、本施設の整備にあたっては、老朽化が進む市民会館や戦災復興記念館のホール機能については更新を行わない方針としており、施設機能の集約と効率的な整備についても配慮してまいります。

また、建設費の財源は基金及び地方債を予定しています。地方債の返済負担については、「仙台市の財政見通しと対応の方向性について」によれば、市債残高のピーク時においても国の早期健全化基準（25%）を十分下回る水準（概ね 10%を下回る程度）となる見込みですが、国の補助制度の活用や企業版ふるさと納税をはじめとする民間資金の獲得など、財源確保についても検討を進めてまいります。

▶ 運営費について

・開館後事業支出が 18 億円に対して事業収入が 4 億円というのは問題。補助金、協賛金、CF をあてにしているが、確実な財源の確保策を講じること。

・運営費 18 億円のうち市負担は何億円なのか？それは妥当なのか。

・趣旨は理解できますが、この建物でなければならないのかが分からない。維持管理費はもっとかかると思う。毎年赤字の建物で、未来の子どもたちに負担をかけるのみ。

・大規模改修費含めて 10～15 年間の運営費の金額、及び収入見込みの根拠、歳入アップの想定金額と根拠が知りたい。その間に使われる税金総額は？

・仙台市新庁舎をはじめ、本件音楽堂、屋内遊び場など新しい施設には多額の維持費がかかる。その他にインフラの維持更新費など、人口減少にある本市の財政の持続可能性が心配。

・熱効率の良さ悪さ、ガラス面の多い吹き抜け部は管理電力消費がかかるのではありませんか？
多要素が一つになるとは思えない。無理。危ない。

・空間エントランスの空調費用はどう考えているのか（管理費、寒さ・暑さ対策のコスト見込）。

公共の文化施設においては、利用料収入のみで運営費のすべてを賄うことは難しく、一定の公費負担のもとで、市民に文化芸術に触れる機会を提供するなどの事業を実施しております。本施設においても、誰もが気軽に文化芸術に触れられる環境を確保するなどの観点から、公的役割を踏まえた運営を行っていくこととしています。

本施設の運営費に係る市の負担額や長期的な収支見込みについては、現在、具体的な運営スキームや事業内容の検討を進めている段階であり、現時点では他都市の類似施設を参考に見込んでいるところです。本市全体の財政運営に配慮しながら、利用促進による収入確保や運営の効率化などの検討を進めてまいります。これまで仙台で開催できなかった大編成のオーケストラやオペラ、バレエの公演などが開催できるようになり、本市の文化芸術環境が充実するものになるほか、市民とプロがともに参加した作品の創作にも取り組むことで、多様な人材やノウハウが育ち、地域の文化芸術力が総合的に引き上げられる施設となるよう、運営について検討を深めてまいります。

▶ 経済波及効果について

・経済効果（中間報告（R7.11））54 万人、47 億が最新では 72 万人、87 億になった根拠を示して。

・計画している経済効果について市民独自の考えは？ 他者を事例にしてもしょうがないのでは
最後に人口減少局面での経済効果を最適化するのには相当の力が必要である。多額のお金を使うのだから、職員全員野球でとりくんでほしい

・来場者数見込みは約 72 万人とのことですが、その内訳を教えてください。大ホールの利用のみに限って考えると 365 日、毎日満席利用の概算になりますが、これは非現実的なことのように思えます。

経済波及効果の試算については、当初、既存施設の利用状況や市内イベントの実績を基に、見込まれる利用状況から推計しておりましたが、集客が見込める魅力的なコンテンツの開発のほか、青葉山エリアでの立地を生かし、周辺施設や観光施策との連携を図ることで、観光消費額の大きい県外来場者数および宿泊者数の拡大につなげていくという視点も踏まえ、改めて経済波及効果を算出したものです。

具体的には、観光部門との連携した来訪促進や情報発信の強化により、県外来場者数や宿泊者数の増加を見込んだほか、大規模学会の開催による来場者や観光コンテンツとも連携した催しの展開、建築の魅力を生かしたイベントやツアーなどによる来場者数の増加を織り込んでおります。

なお、試算にあたっては他都市の事例も参考としつつ、本市におけるこれまでの観光施策や交流人口の拡大の取組、宿泊者数の実績などを踏まえ、見込んだものです。

今後は、観光施策との一体的な展開を図りながら効果を高めるとともに、経済効果の最大化に取り組んでまいります。

(3) 規模・機能・需要について

▶ ホールの規模

・2,000 人ホールについて 合唱コンクール、吹奏楽コンクールの団体が 2,000 人を要求していると聞いている。仙台フィルの規模で、毎回の定期演奏会を実施するのは本当に可能なのか。年 1 回のサントリーホールと川崎ミューザはエキストラ投入等で対応していると思う。

・2,000 人のサ라운드型のホールが欲しいと言ったのは誰ですか？ 仙フィルが欲しいのは 1,500 人規模のシューボックス型だと元仙フィル団員より伺いました。

・人口が減少しているのに利用者数が増えるのか。紹介いただいた他の施設 600～700 名であり、2,000 名は多すぎる。

・人口減少が激甚化している昨今、将来にわたりこの施設が採算に見合う集客を確保できるのかはなはだ疑問である。人口減少はマーケットの縮小であり、いくらいい内容のものが開催されても、採算に見合う集客数が確保されることは到底実現されるとは考えにくい。この点をいかがお考えになりますか。お答えください。さらに減築を考えるべきではないでしょうか。

・先日、有名な方のクラシックコンサートへ県民会館へ行って来ましたが空席もだいぶありました。県立ホールも出来るのに集客に不安はないのか。

・アマチュアの吹奏楽団では 400～500 人程の集客がある楽団が多いので、小ホールが 350 人だとキャパが小さすぎて入れません。小ホールは 500 人くらいのホールになりませんか？

・いまいるこのホールと（交流ホール）300 席 472 m²（22m×24m）複合施設（ふきぬけ 4 階分のロビーほとんどの部屋がロビーに面している配置を大きさの規模間、高さなど比較して解説していただきたいです。

2,000 席規模のホールは、全国を巡回するコンサートや公演において、ひとつの標準的な規模とされており、また、合唱や吹奏楽などの広域的な大会を開催する際にも、2,000 席規模のホールが会場選定の目安とされているところ。

レジデントオーケストラとなる仙台フィルハーモニー管弦楽団は、サントリーホールやミューザ川崎シンフォニーホールといった 2,000 席規模のホールで公演を行い、高い評価を受けている実績があります。加えて、全国の 2,000 席規模のホールでは、演奏曲目や公演形態に応じて様々な公演が行われています。本施設でも定期演奏会のみならず、幅広い公演や大会等の需要に応えられるホールとして整備するものです。

本市においては、現在でもホールの予約が取りにくいとの声が寄せられるなど、需要が高い状況が続いており、県及び市において実施した需要想定調査においても、それぞれが 2,000 席規模のホールを整備した場合でも需要が見込まれるとの結果が得られています。また、市民会館や戦災復興記念館のホール機能の更新を行わない予定であることから、これらの需要を受け止める役割も本施設に求められています。

さらに、自主事業や他ホールとの連携による事業として、大編成オーケストラやオペラ、バレエなどの公演を開催することを想定しているほか、2,000 席規模で高い舞台性能を備えたホールとすることにより、東京の音楽事務所からは、首都圏からのアクセスの良さや東北の中心都市であることなどから、これまで仙台では実施が難しかった公演などの需要が見込まれるとの見解もいただいております。魅力的な公演などを開催するためには、施設の特徴を生かしながら、全国の文化施設や多岐にわたる関係者との関係構築が重要であり、運営体制や人材の確保などについても今後さらに検討を進めてまいります。

本施設は「市民とプロがともに主役となる施設」を目指しており、施設単体での利用にとどまらず、市民利用の確保や多様な事業展開、交流人口の拡大などを通じて、稼働率の向上に向けて検討を進めるとともに、施設の規模や空間構成について、今後具体的な規模感や利用イメージしやすい形での情報提供に努めてまいります。

▶ 新県立劇場について

- ・県も同じような施設を建設中だが、客の奪い合いにならないのか。
- ・宮城野区にできる音楽ホールとの違いは何ですか。
- ・現在、宮城県と仙台市とで大型プロジェクトが進行しているが、市民にとってはどちらも同じ性能の品物を求めているように思えます。本来、企業的に考え直せば互いに差別化して収益を上げるべきだと思いますが、その点、県と仙台市とではキャッチボールを行った上で計画をしているのでしょうか。余りに大型なので市民の税負担が心配です。
- ・県でも似たような構造物を作るとの事、双方で話し合いは持たれているのでしょうか。税金が有効に使われることを望みます。
- ・県立劇場（宮城野区）では足りない利用を説明して欲しい。

県が整備する宮城県立劇場は、現県民会館の老朽化に伴う移転建て替えであり、従来の県民会館の利用の多くが移行すると見込まれています。一方で、本市においてはホール需要が高く、市民会館や震災復興記念館のホール機能の更新を行わない予定であることから、これらを踏まえると、一館のみで需要を受け止めることは難しいと考えています。また、県と市がそれぞれ実施した需要想定調査においても、双方が 2,000 席規模のホールを整備した場合であっても、十分な需要が見込まれるとの結果が得られています。

こうした需要面の視点に加え、本施設は、本市の文化芸術の力を総合的に高めるとともに、災害文化との融合という特徴を生かしながら、仙台のまちの魅力向上を図ることを目的として整備するものです。施設の機能面においても、県立劇場がポピュラー音楽やミュージカル等を含む多様な公演を想定しているのに対し、本施設の大ホール、クラシック音楽やオペラなどに適した生音重視の音響と、客席が舞台を囲む一体感のある空間構成を特徴としています。

このように、それぞれ異なる強みを有する施設が共存することで、多様なニーズに対応するとともに、まち全体としての文化芸術環境の充実につながるものと考えています。

今後も県との情報共有や連携を図りながら、相互の特性を生かした施設運営を進めてまいります。

▶ 転換形式について

・2つのホール形式に転換可能とすることによる建設費の上昇、施設オープン後の転換装置のメンテナンスや装置故障時の修繕費、さらに施設老朽化に伴う改修時の費用高騰が懸念されます。財政状態の厳しい仙台市に、将来に禍根を残すような施設の形態とすることの是非について仙台市長にお伺いいたします。

本市では、「楽都」に加え、「劇都」が都市個性のひとつとなっております。本施設では、ホール形式を転換型とすることで、できるだけ幅広い市民の方が足を運ぶよう多様な公演に対応するとともに、音楽家に限らず、ダンサー、俳優、脚本家、演出家、舞台技術者など、多様な人材が創造活動に関わることが可能となり、地域の人材育成やノウハウの蓄積にもつながるものと考えています。

整備にあたっては、コスト抑制の意識を持ちながら、今後の実施設計を進めてまいります。

(4) 設計・デザイン・安全性について

▶ 外観デザイン・構造等について

・経費（建設・維持管理）節減のため、屋根をシンプルにすること。

・私は音楽ホールや震災メモリアル拠点の整備そのものに反対する者ではありません。文化芸術や震災の記憶を次世代に継承していくため、こうした施設が必要であることは理解しています。一方で当初から事業費が大きく増額され、市民の間には様々な疑問や不安の声があることも事実です。そこでお伺いしたいのですが、この施設については「デザインで選ばれたわけではない」と説明されています。しかし、市民から見ると、現在の特徴的な建築デザインが事業費や将来の維持管理費を考えにくく、「なぜこのデザインでなければならないのか」という疑問があります。私は美術館のように建築そのものが展示物となる施設であれば理解しやすいのですが、音楽ホールや震災メモリアル拠点において、現在のデザインによって得られる価値と、よりシンプルな建築形態、例えばキューブ型の建築とした場合との違いを、市民に分かりやすく説明していただきたいと思います。この施設は青葉山という、仙台の自然や歴史、学術環境と深く結びついた特別な場所です。その中で、このデザインが周辺環境との調和という観点から、どのように検討され最適と判断したのでしょうか？

・設計者を選んだのは市民ではない。プロポーザルの審査委員が選んだのか。審査員は誰が選んだのか。その人の好みで決まっている？オペラハウスのような世界的に認められる建築になるとは思えません。

・全体として、川内という立地にふさわしい建物とは思えない。

・どうしたらこんなデザイン？プロポーザルってどうやって決めたのか。選考委員って？

・事業費を大幅に増しているのが屋根の構造と思う。今後の修繕費の高額化にも影響すると思う。大手門復元とあわせて、川内地区を城のイメージで整備したいと市長は考えていると思うが基本的にシンプルな構造にしてほしい。

・まわりの青葉山に合っていない、違和感のある屋根、強度？

・構造的に一般建築物と比べて安全率はどうですか。

・なぜあのような形の屋根なのか。雨風の時は大丈夫か。

・外観デザインがピンときません。多数の重なる庇は何を現わそうとしているのか。

・藤本さん、外観のヒラヒラの意味を説明してほしい。

・屋根がポテトチップのようですが、強風には耐えられるのでしょうか。もっと外見が落ち着く形の方がいいのでは？ ガラスが多く地震も心配。心が乱れるデザインかなあ？ とにかく、蔵王降ろしの風が心配です。屋根がどこかに飛んでいきそうです。冬のつらさもどうなるのでしょうか？

・多くの市民がヒラヒラ屋根の形状に不安を持っています。

あの形状にどんな意味が込められているのでしょうか。メンテナンス、建設後のランニングコストの面でも。

設計者の選定については、公募型プロポーザルを実施し、設計方針や技術的な提案を総合的に評価したうえで選定を行ったものです。審査にあたっては、建築分野の専門家やまちづくり分野の有識者等により、客観的な視点で評価を行っております。

本施設のデザインについては、基本計画において掲げた「自然や景観と調和し、杜の都の新たなシンボルとなる施設」という方針を踏まえ、設計者が「たくさんの／ひとつの響き」というコンセプトのもと、多様な人や活動、記憶が重なり合いながら一体となる場のあり方を表現し、本施設の複合的な機能や役割を建築として体現したものと認識しています。

屋根形状については、屋根を分節することで、施設の高さや大きさに伴う圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図るとともに、庇（ひさし）を深く張り出し、日差しの遮蔽を高めながら、屋内と屋外が連続する開放的な環境を確保することを意図しております。

構造面については、建物全体および屋根形状についても構造計算に基づき設計しており、一般建築物の 1.25 倍の地震に対しても構造体に問題が無いよう設計しております。また、維持管理やコスト面については実施設計の中で施工予定者の知見も取り入れながら、合理性や維持管理性に配慮した検討を進めていきます。

▶ 施設の耐用年数について

・この複合施設は何十年もちますか。

本施設の使用期間については、本市の「公共施設総合マネジメントプラン」に基づき、原則として 80 年の使用を想定しています。また、適切な維持管理を行うことで、建物の状態に応じてそれ以上の期間使用することも想定し、将来にわたり持続的に利用できるよう整備してまいります。

▶ その他設計について

・2F ホワイエからロビーへの大階段「上：広い 下：狭い」退場時に危険と思いますが安全対策はどのように施されますか？

- ・エレベーターは何機まであるか。4 階までは階段だけか。スロープはないのか（階段は歩けないがスロープなら歩ける）
- ・不要な階段や鋭利な突起物、角など、極力排除して安全第一の施設にしてください。
- ・トイレの数を増やすこと
- ・人にやさしいまちづくり条例に抵触していると思います。障害者や車いす、老人に対する設計が変です。

本施設の設計にあたっては、安全性やバリアフリーへの配慮を重要な視点として、多様な方が安心して利用できる施設となるよう検討を進めています。

動線計画については、来館者の円滑な移動を確保するとともに、特に公演終了時などの混雑時においても安全に利用できるよう、階段の形状や配置、動線の分散などを含めて検討を行っていくこととしています。また、エレベーターやバリアフリー動線の確保についても、高齢の方や障害のある方を含め、すべての利用者に配慮した設計とすることとしており、スロープの設置の考え方を含め、利用しやすい移動手段の在り方について検討を進めてまいります。

また、トイレについても、適切な設置数や配置となるよう検討を進めております。

施設内の構造や仕上がりについては、転倒や接触事故の防止など、利用時の安全性の確保に配慮してまいります。本施設の設計にあたっては、これまでも様々な団体と意見交換を実施し、いただいたご意見を反映しながら、「人にやさしいまちづくり条例」をはじめとする関係法令や基準に適合を図りつつ、より高い水準での安全性と利用しやすいさの向上に努めています。

引き続き、実施設計の段階においても、こうした観点からの精査を行いながら、誰もが安心して利用できる施設となるよう取り組んでまいります。

（５） アクセス・立地について

▶ 青葉山エリアでの整備計画について

- ・川内という仙台にとって最も大切な場所にふさわしいのか。
- ・周りの街並みなど立地条件が悪い。

本施設の整備予定地である青葉山エリアについては、本市における歴史・文化・学術の拠点が集積するエリアであり、青葉山や広瀬川などの豊かな自然環境にも恵まれた、仙台の都市個性を象徴する重要な地域と認識しています。また、このエリアでは様々なプロジェクトが展開しており、本施設はその中核となる施設として位置づけています。さらに、仙台城跡や仙台市博物館、東北大学などの周辺施設との連携により、文化・学び・観光といった多様な機能が融合するエリアとして、さらなる魅力向上を目指す場所でもあります。こうした地域特性と将来ビジョンを踏まえ、文化芸術と災害文化の拠点を整備することで、仙台ならではの価値を広く発信していくことを目指しています。

周辺環境や街並みとの調和については重要な視点であると認識しており、施設の規模や形状、景観への配慮、利用しやすい環境づくりなどについて、引き続き検討を進めてまいります。

▶ アクセスについて

・国際センター駅とホールとの動線はどのようになっているのでしょうか。

地下道でつながり考えなどはありますか？国際センター同様、簡易的な屋根付き通路になるのでしょうか。

・国際センター駅、青葉山駅からのアプローチ方法、雨天時などどのように考えているか教えてください。せつかなので、外観、内側もかっこよい、自慢できる建物にしてほしい。

・駐車場を確保すること。

・アクセスが悪すぎる。地下鉄しか手段がないのは致命的である。駐車場を大幅に増やしてほしいが考えはあるのか。今後、市交通局と検討すると説明会であったが、市として真剣に考えてほしいが、いかがか？

・人の移動に関して、コンサート開催の際、特に公演終了時、観客の移動が地下鉄以外の方法が考えにくい。乗用車の駐車スペースがかなり狭いと考える。特に泉区、富谷地区、遠くは山形、福島、岩手。

地下鉄東西線の国際センター駅から施設までの動線については、来館者の利便性や雨天時の利用環境を踏まえ、屋根のある空間でつながり予定としているところです。具体的な接続方法や整備内容については、今後の実施設計の中で調整を行ってまいります。安全かつ快適に移動できる動線の確保に努めてまいります。

また、公演開催時の地下鉄利用における混雑対応については、交通局をはじめとする関係部局と連携して、来場者の安全性や快適性などを確保するよう、引き続き検討を進めてまいります。

駐車場については、敷地の特性や他都市の類似施設の状況も参考にしながら一定台数を確保しているところですが、敷地内の駐車場に加え、複数のプロジェクトが進展している青葉山エリア全体においても駐車台数の確保や運用の連携について、関係部局と連携しながら検討を進めてまいります。

（６） 運営・事業内容（ソフト）

▶ 文化芸術・災害文化事業に関すること

・音楽資料室を作ること。出演記録（チラシ、ポスター、プログラム）等の保管、音楽、オペラ、バレエの資料、レコード、CD等を収集し、企画展を開催する事業を展開する。

・復興と音楽を力説しているが、震災後アーティストが被災地に出向いて演奏したから住民が音楽に接することができたのであるが、果たして新ホールに高いチケットを買って足を運んでくれるか？もっと現実をみて欲しい。

・資料８ページ目、インクルーシブ公演のところに「仙台フィル」と書かれています。具体的にどのような事業をイメージしていますか？

・戦争も災害と言えば、その展示も災害文化事業として考えているのですか。

- ・東日本大震災で守れなかった命、その命を守るために必要な教訓の核心。この予定施設においてその教訓の核心をどのように伝えるのか。
- ・災害文化のコンセプトは理解できました。しかし具体的に日常生活に落とし込むための〈しかけ〉はあるのでしょうか？
- ・宮城県民会館も文化拠点として建設されます。県との連携を図ってほしいと思います。音楽祭とか。
- ・音楽ホールだったはずが、いつのまにか災害関連子供の遊び場的なものも取り入れている。
- ・建設に賛成・支持する気持ちです。この計画当初から「災害文化」が理解できません。今日の説明でも世界で類を見ないものという位置づけですが簡単に言うとかあるいは具体的なイメージで災害文化を知りたいです。
- ・災害文化と文化芸術（特に音楽）と具体的な企画内容を示していただきたい。一般論、抽象論が先行していて具体性に欠けるというのがここまでのお話を聞いての印象です。
- ・劇場活性化法（2012）等、近年芸術関連の法整備が進んでいます。それらを踏まえて、施設の専門性をどのように具体化するのかについて、計画の内容と POINT について説明してください。
- ・AI、IoT を駆使した運営エンターテインメント（こけら落としはぜひNHK紅白歌合戦を）
- ・常設展示や催事、いつも同じ人が参加するようなイベント、ワークショップだけでは、人が集まる施設になれないような気がします。市民がこの施設を好きになり、定期的に訪れ、お金を使ってもらえるような仕組みが必要と思いますが、お考えをお聞かせください。

本施設は、音楽ホール機能と震災メモリアル機能をあわせ持つ、複合施設として整備するものであり、文化芸術と災害文化を組み合わせた新たな価値の創出を目指しています。

プロによる質の高い音楽公演や舞台芸術の上演を行うとともに、施設内の各エリアでは展示やワークショップ、参加型プログラムなどを通じて、文化芸術や災害文化に触れる多様な機会を提供していくことを考えています。

「災害文化」とは、東日本大震災をはじめとする災害の経験を起点に、日常をより良く生きるために生み出される文化であり、災害から立ち上がる人間の力を未来を生きるために活かしていく考え方や手法・行動などを指します。災害は避けることができないものであるからこそ、災害の備えを特別なものではなく日常生活の一部として位置づけることが必要であると考えています。本施設では、単なる展示にとどまらず、文化芸術の手法を取り入れた体験や交流を通じて、より多くの方が関わることのできる形で発信していくことを目指しており、時代やライフスタイルに応じた備え方を主体的に考えることができる展示や、震災を伝える演劇や朗読、メモリアルコンサート等を通じて、震災の記憶を共有し、未来へとつないでまいります。また、ワークショップや講座等により災害に関する学びと実践の機会を提供するとともに、アート手法を活用した、幅広い世代に伝わる空間づくりを目指します。また、文化芸術に関する資料の収集・保存・活用の手法についても、今後検討してまいります。

また、震災後に被災地や福祉施設で行われてきた演奏活動のように、文化芸術を届けるアウトリーチも事業の柱の一つとしており、施設での公演に加え、多様な形で文化芸術に触れる機会の創出を図ってまいります。宮城県立劇場との違いを活かしながら、レジデントオーケストラとなる仙台フィルハーモニー管弦楽団等とも連携し、誰もが参加しやすいインクルーシブな公演や、子どもや高齢の方、障害のある方などにも配慮したプログラムを検討し、災害文化を含む文化芸術環境の裾野を広げる事業展開を目指してまいります。

▶ 運営について

- ・世界から一級の演奏者を呼ぶ体制は？

- ・館長にはどのような人がふさわしいと思いますか。

- ・運営は民間に委託した方が利益が上がると思う。例えば大手企業とか！その方が海外からのコンサートプランが増えると思うが!？。

本施設の運営にあたっては、国内外の著名な音楽家やオーケストラの招聘をはじめ、多くの人を呼び寄せる魅力的なコンテンツを展開していくことが重要であり、仙台国際音楽コンクールなどにおいて本市が培ってきた人脈に加え、さらなるネットワークづくりが必要であると認識しています。また、文化芸術と災害文化の融合を通じて、仙台ならではの新たな文化の創造・発信を図る拠点であることから、その運営には高い専門性とマネジメント能力を有する人材が必要であると考えています。

館長をはじめ、運営に携わる人材については、文化芸術に関する知見に加え、多様な主体との連携や事業の企画・運営を担うことのできる能力が求められるものと認識しており、こうした観点を踏まえ、今後、専門人材の確保・育成や、他の文化施設、芸術団体との連携体制の構築などについても、検討を進めてまいります。

また、運営手法については、効率的かつ専門性の高い運営を実現する観点から、複合施設全体を一体的に管理する単一の指定管理者を配置する方針としておりますが、国内外からの公演誘致についても視野に入れ、専門人材の確保や関係機関との連携を図りながら、本施設の理念に沿った適切な運営が確保されるよう、運営体制の具体化について今後検討を深めてまいります。

(7) その他

- ・市民共創の推進体制は？

- ・大変動、社会、経済、政治文化芸術の大変動の時代に設計、製作、進捗、管理を市民ぐるみで行う。

本施設においては、多様な主体が関わりながら事業を創り上げていくことが重要であると認識しており、専門人材に加え、市民の皆様にも参画いただきながら取組を進めていくことを想定しています。

今年度は、専門人材の参画を得ながら、災害文化の創造事業や文化芸術のアウトリーチ事業などをテーマとした市民共創の取組を開始する予定です。こうした取組を通じて、市民の皆様が事業の企画や実施に関わる機会を創出するとともに、多様な主体の連携による新たなアイデアや人材ネットワークの形成を図ってまいります。

また、取組の状況については随時発信し、広く市民の皆様とイメージを共有することで、施設に対する期待の醸成と参画の広がりにつなげてまいります。

・これだけの費用をかけるのであれば住民投票をしてほしいと考えますがいかがですか。

本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいております。東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。本施設整備にあたっては市民の皆様のご理解を得ながら進めていくことが重要であると認識しており、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら基本構想および基本計画を策定しました。さらに、多様な媒体による情報発信や市民説明会の開催、関係者等との意見交換に加え、先般のシンポジウムの実施など、様々な機会を通じて市民の皆様のご意見を伺いながら検討を進めてきたところです。

今後とも、市民の皆様のご意見を踏まえながら、透明性の確保に努めつつ、適切に事業を進めてまいります。

・当該地の用途（第2種住居）では建設できないので、用途の変更されると思います。

そのスケジュール、どのような理由でどのような用途にするのかおきかせ下さい。

仙台市では、現在、適切な土地利用の誘導・制限を図るため、用途地域などの都市計画の見直しを進めております。青葉山周辺地区では、大学周辺の教育環境の保護を図ってきましたが、都市計画マスタープラン策定以降は機能集約型の市街地形成に向け、青葉山周辺に都市機能として求められる役割も変化してきています。

具体的には、令和3年3月に策定した現行の都市計画マスタープランにおいて、青葉山周辺地区を「国際学術文化交流拠点」として位置付けたこと、また、令和5年3月に策定した立地適正化計画において、文化・教育機能を誘導する施設として定めたことなどです。このことから、広域的な文化・交流の拠点としてコンベンション機能やミュージアム機能の集積に向けて用途制限の緩和を今後行う予定としております。

▶ その他感想・ご意見など

・私は音楽をずっと学んでいましたので、片山氏に伺えてよかったです。市長のお話を初めて伺いました。さすが宮城県一の都に市長のお話ですね。又何かの機会に伺いたいと思っております。

・10年先より未来の事業になりますが、高齢者の方がその存命中に恩恵を受けるような変則的な事業と工事整備を考えていただきたい。

・今日の説明会は中間案時と違ってより具体的な説明を設計者からきけると思いましたが、ほぼ同じ説明で大変がっかりしました。市民が懸念していることが全く市長にも設計者にも伝わっていないのですね。市民は図面や計画書を読み込み、そこから想像するしかないと思いました。それはとても難しく、市からの説明不足ではないのでしょうか。

これまでお寄せいただいたご意見は、本施設に対する期待や関心とともに、計画内容や説明のあり方に関するご指摘など、様々なお声をいただいております。

本施設がもたらす将来のまちの姿や、具体的な利用イメージを含め、分かりやすい形での情報提供に努めているところでございますが、いただいたご意見も踏まえながら、引き続き、市民の皆様にも広く知っていただき、関心や関わりの広がりにつながるよう丁寧な情報発信に取り組んでまいります。